

キリスト者障害者通信

き ぼ う

No.81
2023.7.1

特定非営利活動法人兵庫共励会
〒672-8045 姫路市師磨区中野田四一六三三八
電話 〇七九一二三五八八一
FAX 〇七九一二三五八〇一六
振替 〇一一五〇一五〇四二七五八
発行所 廣田守男
印刷所 新生会作業所

「あなたはそれをどう読むか」



椿本博久 牧師

日本バプテスト連盟

明石バプテスト・キリスト教会

牧 師 椿 本 博 久

明石バプテスト・キリスト教会牧師の椿本です。私たちの教会は、3日後に「伝道開始60周年」を迎えます。

仏教の家庭に生まれた私が、なぜこの記念日に、自分が初めて聖書に捕らえられた「恩恵ある」教会の牧師としてそこにいるのか、私の上に起こった神様の「奇跡のような」消息の一端をお話しして、本日の共励会総会の奨励に代えさせて頂きたいと思います。

私は今年で76歳になりますが、思えば60年前、学校の友人に誘われて、冷やかし半分の気持ちで教会のイースター礼拝に出たのがキリスト教との最初の出会いでした。すぐに逃

げ帰ることができるよう到最后列に座り、礼拝が終わるとすぐさま教会を出ようとしていたのですが、思いがけず若い牧師に呼び止められたのでした。「君は今日初めてだね」

応接間に招かれ、私の近況を聞きながら、牧師は聖書の1節（ローマの信徒への手紙7章13節以下）を読んでくれました。それは私には生まれて初めての聖書との出会いでしたが、「思えばその時、私は聖書に（神様に、キリストに）捕まってしまった」のです。そしてその時以来、毎週教会に通うようになり、クリスマスにバプテストマを受けたのでした。

明石教会に在籍したのはわずか3年で、卒業後は学びや職業に伴って全国を転々とした

のですが、不思議な導きにより、それから40年後、勤務のため明石に戻り、そして60年後、この私が「恩恵ある教会」の牧師としてこの記念の日を迎えるとは「夢にも思わなかった」ことで、神様のなされる不思議さに驚きと感謝に溢れています。

さて今日から10日後は「ペンテコステの記念日」がやってまいります。ペンテコステの出来事はまさに弟子たちの生き方が180°変わった（「逃げていた」彼らが「大胆に福音を宣べ伝える」者に変えられた）日であり、教会が生まれた日でもあります。「聖霊降臨」は実に「人の生き方を変えた」、ここにペンテコステの出来事の真意がありますが、私にとっては、冷やかし半分に教会を訪ねたその時がそうでした。しかもそれは私の意志ではなく、神様からの一方的な働き（恵み）であつたのです。

そのことがあつてから私には、会社や社会での栄達ではなく「聖書のことをもっと深く学びたい」という思いが日に日に大きくなり、長男として家族を養うという責務を果たし終えた4年後、会社を辞め聖書の学びを志して上京し、大学（当時日本で一番学費の安かった公立大学）の史学科に入学して聖書の背景となるオリエント・ギリシャ・ローマ史を学び始めました。聖書については当時有名な先生方が講じておられた無教会の聖書セミナーに出席したのですが、そこが突然に閉鎖にな

り、学びの一つの道が閉ざされ途方にくれてしまいました。

その時たまたまキリスト新聞で夜間の神学校の聴講生募集の記事を見て、そこを訪ねました。そして（私は牧師になることなど考えてもいなかったのですが）校長の勧めもあって、その神学校に入学し、聖書の全体について「深く」学ぶ道が開かれたのでした。私は「思いを超えた神様の導き」であることを感謝しました。神学校では当時のキリスト教界のそうそうたる方々（東神大や青山学院の先生方）から学ぶことができたからです。

このような事情で、昼は大学、夜は神学校、合間を縫ってアルバイトという過酷な生活が始まりました。しかしこれもその後の私の勤め（高校教師「教職課程の履修が必要」、教会の牧師）のため神様が与えてくださった準備の期間であったことを思い、心から感謝しています。

大学と神学校を卒業後仕事を探しました（わたしの希望は大学での学びを生かした教職でした）が、ちょうどオイルショックの頃で、各社採用を控え（倒産も多数）ていて就職先はありませんでした。仕方なく友人数人と共に、医療計測関係（医学研究のための機材開発）のベンチャー企業を興し、日本初の様々な機器の開発に明け暮れました。

それから10年経った1988年、当時の「受験競争」一辺倒の教育界に抗して「聖書

を重んじ、（教育基本法にある）人格教育を柱にし、「生活即教育」となる全寮制の高等学校」（キリスト教愛真高等学校）創立の計画が神の導きのもとに実現し（計画から実現まで3年、1学年26人（全校生徒72人）の日本でも最も「小さい」文科省認可高等学校の設立は実に（奇跡的）、私は名残惜しい会社を辞して、本来望んでいた教職＝愛真高校教諭（社会科の歴史分野と聖書担当）となったのでした。そこで40歳から55歳までの人生の最も充実した15年を若い生徒たちと過ごすことができたのは、私にとって最大の喜びでありましたが、今思い返せば「この仕事」のために、神さまは私にそれまでの準備の期間を備えてくださったのだと悟り、感謝しています。

でも技術者から突然教育の世界に飛び込んだ私にはいつも「教育とは何だろう、これで十分な教育ができているのだろうか」という課題がありました。その課題を自分なりに考える必要を感じると共に、教育学を学ぶためにもう一度大学で学びたいと願って、55歳を機に愛真高校を辞して兵庫県にある教育系の大学院に入学することにしました。

ハローワークで新しい仕事探しを始めたのですが、当時は失業率5%の不景気で、係の方から「55歳では正規の仕事はありませんよ」と言われました。しかし神さまはそこでも奇跡的な道を備えていてくださいました。

国立高専教員の職でした。たまたまインターネットでその教員募集の公募を締め切り日の前日に見たことがきっかけなのですが、コネもなく、学位（博士号）もなく、大学は文系しかも高校で社会科を教えていた者が専門学科の電気情報工学を教えられる訳がなく、到底採用は無理だとは思いましたが応募したところ、採用となりました（これは今でも奇跡というほかはありません。もしかすると30歳代の頃ベンチャー企業を設立して医療計測機器の開発に従事した実績が認められたのか……とすると神様は25年も前にこの日のために準備をさせてくださったのか）。

ともあれ私は55歳の無職者から突然国家公務員となることができたのです。それと同時に、それまでの育英会が独立行政法人学生支援機構となり、奨学金の年齢制限を外して55歳の私にも奨学金を出していただき、（しかも移行期間のため教職に就いたものは返済免除の最後の年に当たったので）返済免除となったのでした。これもお金のなかった私たちへの神様からのありがたいプレゼントだったと感謝しています。

高専の教員となったので、恩恵ある明石教会へご挨拶に行きましたところ、教会はいろいろな事情で教員5人の牧師給も出せない小さな教会になっていました。すぐに私たち夫婦も「枯れ木も山の賑わい」と会員になり

ました。まもなく牧師が退職されて無牧師になったので、私は牧師代行（協力牧師）となり、定年退職後は請われて牧師となりました。ここで30年前神学校で学んだことが生かされることになったのです。そして今年、この明石教会は「伝道開始60周年」を迎えます。

私の人生は60年前この教会で「生き方を変えられ」、しかも様々な道筋を経て、今この記念すべき時に、この「恩恵ある教会」の牧師として立っていることを万感の感謝をもって迎えています。

私は今心一杯感謝しています。「人生の最後を牧師という恵みある職務で終われますことを」。また「週ごとに真摯に聖書に向き合い深く学ぶ機会を与えられたことを」

それと合わせて私は神さまから問われています。「あなたはそれ（聖書＝神の言葉）をどう読むか」と。

本日聖書の個所として取り上げましたルカによる福音書10章25～37節は、有名な「よきサマリヤ人」についてのイエスの言葉ですが、その場面状況はある律法の専門家がイエスを試そうとして、「先生何をしたら永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか」と尋ねたのに対して「律法には何と書いてあるか」と答えられた。それに対して律法学者は「心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くしてあなたの神である主を愛しなさい。また隣人を自分のよ

うに愛しなさいと書いてあります」と答えたところ「正しい答えだ」と肯定されるとともに重ねて「あなたはそれをどう読んでいるか」と尋ねられた、とルカは記しています。つまり「知っている」というのではなく「それをどこまで深く（自分の生活の中で）生きざまとして」読んでいるか」と私たちに尋ねられているのです。すなわち牧師として、聖書の話としては知っていても「その言葉を本当に生きているか」とその生きざまを問われているのです。後期高齢者となっても、自分の人生を改めて再考させられる毎日が続いています。信仰者にとつては今はスタートだと。



(2023年度 定期総会集合写真)

「バプテスマ直前のご挨拶と祈り」 (2020年12月20日 神戸聖愛教会にて)

日本基督教団 神戸聖愛教会

信徒 片 岡 亥一郎

やっと本日、バプテスマの日を迎えることが出来ました。この神戸聖愛教会にご縁を頂いてから本日まで、ほぼ5年の歳月が経ちました。皆様からバプテスマを勧めて頂いていましたが、本当にお待たせいたしました。

只今から、この神戸聖愛教会にご縁を頂いたきっかけと、この5年の歳月の経過を少し喋らせていただきます。

私は、大学を卒業して直ぐに父親が経営する運送会社に就職しました。大正6年の創業で当時70年創業を超える会社で父親は2代目の社長でした。私が就職して数年経った頃、父親は会社の労働組合とのトラブルにより、一気に会社の業績を悪化させ、赤字寸前の業績と精神疲労により私への社長継承を望んでいました。そして平成4年に父親は引退を決意し、会社経営を3代目社長として私に譲りました。それから私は、25年近く会社経営に専念し、労働組合との折衝と不動産業を含む会社構成の変更により、親から引き継いだ赤字寸前の会社を常時年間1億円以上の利益を

出す会社に立ち直らせました。その時の達成感の喜びは今も忘れませんし、自らの誇りでもあります。ところが、その束の間、予想もしない出来事が発生しました。会社創業以来からの3代目となる株主が2人いました。彼らは、私の会社再建の期間中、会社経営に無関心で、非協力的でした。勿論、彼らにも私

に対する何らかの不満があつたでしょうが、私も彼らの経営能力を評価していませんでしたので、彼らとの対話はありませんでした。そこに、私と彼らとの間に、溝が出来ていました。その2人の株主が会社の業績が回復した途端に結束し、取締役会でクーデターを企て、私を会社から追放する事態となりました。

親から引き継いだ私の株式は全体の49・5%で半分に満たず、反撃するにも仕方の無い出来事でありました。おまけにクーデターの理由付けとして会社法の解釈を巧みに偽装し、私に対して2億円近い損害賠償額の請求で裁判にも提訴しました。身ぐるみ剥がれた私は、被告の立場で自らの正義を訴える力を持たねばと、その後半年間書籍を読み漁り精神力を維持する努力してきました。それともとうとう限界を感じている頃、書籍を通してやっとキリスト教に出会う事が出来ました。

ふと見上げれば、自宅の近くにこの神戸聖愛教会の十字架が見えました。そして次の日曜日の2016年1月10日にこの神戸聖愛教会

会の扉を恐る恐る開かせて頂いた次第であります。

それから5年近い裁判闘争が続き、「神の武具を身に着け、真理を帯として腰に締め、正義を胸当てとして着け、信仰を盾として戦い」続けました。(エペソ6章13節)

そして本年5月に納得できる裁判結果で決着する事ができました。

クーデターを起こした2人の株主たちとも和解が成立し、神からの満ち溢れる恵みを頂き、新たな生まれ変わりの第二の人生を歩める事が出来ました。

祈り

天なる神様、あなたを賛美します。只今よりバプテスマに臨みます。振り返ればくねくねと過去に続く一本の道が見えます。この道は、私一人では、到底辿れない道でした。

道の曲がり角にいつもあなたが居て下さいました。お陰様でようやく目的の地に辿り着く事が出来ました。そして今、直ぐそこに、あなたがおられます。放蕩息子が只今、帰って来ました。これまでの5年の歳月を想い、あなたの見守りと支えに感謝します。これからあなたの傍を離れません。この感謝の祈りを、イエス様のお名前によって天なる御父(おんちち)に捧げます。アーメン

2022年度 事業報告書

1 事業概要

特定非営利活動法人として事業開始して9年目の歩みを進めてきました。

法人の目的は、兵庫県に在住する障がい者と共に励まし合う事を通して、生き甲斐作りと豊かな生活作りを目指す事となっています。2022年度は新型コロナウイルス感染症の感染が減少してきたため、計画していた活動の一部を開催することができました。

当法人の理事を長年されていた古澤輝勝さんが亡くなられ、遺言により明石市内にある、シオンビルと土地の遺贈をお受けしました。2022年6月からビルを貸している業者から賃料を得ることになりました。新たな障がい者への支援事業を理事会で立案してゆきます。

2 事業報告

計画に掲げた事業について、理事会で議論を重ね、一部実施することができました。

- (1) 研修会は一日研修会・一泊研修会とも中止いたしました。
- (2) 小旅行についても、中止しました。
- (3) 拡大懇談会と50周年記念集会は予定通り開催しました。
- (4) ランチョンは偶数月の第2金曜日に日本キリスト教団神戸聖愛教会で、昼食の後、講師からお話を聞いて交流の時を持つ会を4回開催する事ができました。
- (5) 機関紙の発行は、7月と12月 2回発行し、会員などに配布いたしました。
- (6) 会員宅、福祉施設、病院訪問
新型コロナウイルスのため中止いたしました。
- (7) 相談 特に特別な場は設定しませんでした。ランチョンの交流時等に相談する時を持ちました。

3 総会及び理事会報告

総 会 5月31日・臨時（書面）3月

理事会 4月14日・6月23日・9月29日・12月1日・2月18日 5回開催

3 特定非営利活動に係わる事業

定款の 事業名	プロジェクト内容	実 施 月 実施回数	実施場所	対象者	収益(円)
障がい者への 支援事業	研修会	中止			48,000円
	小旅行	中止			
	ランチョン交流会	4・6・8・11月 4回	神戸聖愛教会	障がい者・支援者 36名	
	拡大懇談会	9月		障がい者・支援者 18名	
	50周年記念集会	10月		障がい者・支援者 23名	
	機関紙発行	7月 12月 2回		障がい者・支援者 600名	
	会員宅・福祉施設・ 病院訪問	中止			
	相談	適宜			

第 2 号議案 特定非営利活動法人兵庫共励会

2022年度活動決算書 2022年 4 月～2023年 3 月

(単位：円)

科 目	特定非営利活動に係る事業	その他の事業	合 計
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	66,000		66,000
賛助会員受取会費	64,000		64,000
2. 受取寄付金			
受取寄付金	53,360		53,360
遺贈不動産 (土地)		13,786,000	13,786,000
遺贈不動産 (建物)		7,371,000	7,371,000
3. 受取助成金等			
受取地方公共団体助成金			
受取民間助成金	80,000		80,000
4. 事業収益			
NPO 活動に係る事業収益	48,000		48,000
不動産貸付業収益		2,779,413	2,779,413
5. その他収益			
受取利息	1	142	143
雑収益			
経常収益計	311,361	23,936,555	24,247,916
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給与手当	0	0	0
法定福利費	0	0	0
人件費計	0	0	0
(2) その他経費			
講師謝金	24,000		24,000
消耗品費	5,120		5,120
印刷費	61,635		61,635
通信費	66,629		66,629
訪問費	0		0
会場費	24,600		24,600
諸集会開催費	44,194		44,194
雑費	10,500		10,500
その他経費計	236,678	0	236,678
事業費計	236,678		236,678
2. 管理費			
(1) 人件費			
給与手当	0	0	0
法定福利費	0	0	0
人件費計	0	0	0
(2) その他経費			
消耗品費	3,557		3,557
印刷費	4,105		4,105
通信費	8,093		8,093
旅費交通費	5,580		5,580
光熱水費・ビル管理委託費等		317,752	317,752
保険料	6,360		6,360
会議費	51,256		51,256
租税公課	0	3,416,360	3,416,360
雑費 (慶弔費・司法書士支払い等)	3,247	948,880	952,127
減価償却費	0	0	0
その他経費計	82,198	4,682,992	4,765,190
管理費計	82,198	4,682,992	4,765,190
経常費用計	318,876	4,682,992	5,001,868
当期経常増減額	△ 7,515	19,253,563	19,246,048
経理区分振替額	0	0	0
当期正味財産増減額	△ 7,515	19,253,563	19,246,048
前期正味財産額	10,294,475	0	10,294,475
次期繰越正味財産額	10,286,960	19,253,563	29,540,523

編集後記

私たちの法人は、故 古澤輝勝兄から、シオンビルと土地の遺贈を受け、不動産貸付業を事業に加えました。このことによって、年間約三百万円の収入を得ることができるようになりました。今までの事業を継続すると同時に、新しい事業を加えてゆく必要があると思えます。皆さまからのご意見を理事会に聞かせてください。

今号では、総会でお話ししてくださった、椿本博久牧師の原稿と、新しく理事に加わっていただいた片岡玄一郎兄から受洗に至った証しの原稿をいただき、ご紹介とさせていただきます。

献金者名

(敬称略)

■団 体
在日大韓基督神戸教会・日本基督教団 神戸栄光教会
姫路教会・姫路あけぼう教会・神戸聖愛教会・播磨新宮教会

■個 人
井上恵津子・小島佳世子・木村光世・柴田富士子・谷内 豊
武田多美・中道澄春・日数久雄・数子・三宅 敬・安井修二
八尾文世・山田秀穂・故 古澤輝勝 (シオンビル)

■助成金
日本基督教団 兵庫教区伝道部各種伝道委員会
播州地区障害者にかかわる委員会
正会員会費 32名 賛助会員会費 6 名
(氏名は省略させていただきます。)

ありがとうございました。